

三島市予算案

一般会計過去最大424億円

発展へ地盤固め

三島市は1日、2023年度当初予算案を公表した。本格的な着工を予定する三島駅南口東街区の再開発事業や公営住宅の建て替えなどで投資的経費が増加し、一般会計は過去最大の424億8千万円(前年比8.4%増)。

Table with 3 columns: Category, Amount, Percentage. Includes '一般会計 424億8000万円 (8.4%)' and '主な歳入' (Main Revenue) and '主な歳出' (Main Expenditure).

Table with 2 columns: Project Name, Amount. Lists '自転車用ヘルメット購入費補助金 200万円', '処理施設整備 1億1200万円', etc.

三島市は1日、4月、現在と同様に県から副市長を1人増やして2人にするなど市庁舎内の機構改革について方針を発表した。14日開会の市議会2月定例会に関連議案を提出する。

副市長2人体制へ 事業・施策の実現加速... 三島市は1日、4月、現在と同様に県から副市長を1人増やして2人にするなど市庁舎内の機構改革について方針を発表した。

移住定住の促進や就業支援、中心市街地の商業活性化事業などを拡充し、コロナ後を見据えた人口確保や子育て支援、経済対策の充実も図る。

大場地区の区画整理や企業誘致など多くの施策の実現に向け、「確実かつスピーディ」な推進を期す。このほか、31年度の供用開始を目指す市役所新庁舎の建設に

記者の目

「未来への飛躍」をうたう三島市の新年度当初予算案は、数年先を見据えた投資的な事業が目を引く。昨年12月の市長選で今後4年間のかけ取りを任された豊岡武士市長には、目先にとられない柔軟性と着実な実行力が求められる。

未来と今、両立を

の時代を読む先見性と広域の視点。飛躍する未来は駅前だけ、三島だけではなく、周辺地域や県東部にも広く恩恵を波及させてこそだろう。他方、光熱水費の高騰により市の経費は数億円程度の増加が見込まれる。

豊岡武士市長による